印象吟について　　松橋帆波

印象吟とは課題吟の一つですが、課題を記号、物体、音、色、味、匂いなど、言葉でないもので出題するものです。
その課題から受けた「印象」を基に作句していくものです。取り組み方としては、その課題から言葉を連想していくのではなく、その課題から受けた印象を土台に自由吟を詠むと考えてください。
例えば次のような課題が出たとします。

「 」

象形文字のように見えますね。魚が飛び上がっているようにも見えます。また、人の顔や母親を連想する方もおられるかも知れません。
そこで、

温かい象形文字に瘤二つ
シーパーク　イルカの知恵を見て帰り

という句を作ったとします。
できあがった句を課題を見ないで読んでみましょう。川柳になっているでしょうか？
課題から連想されたものを説明した作品になっていないでしょうか？

連想吟の有益な点は、課題が言葉ではないため、課題を外して句そのものを推敲する作業が容易にできるということです。自分が課題から受けたイメージを土台に川柳を詠む。と捉えていただければ分かり易いと思います。

例えば、象形文字、踊っている人、というイメージから
五千年前から人は祭り好き
特異な姿をした魚というイメージから
百円で廻ってるのが深海魚

のようになります。
しかし、課題吟ですから
「海の海草のイメージ」から「ワカメ」そして「サザエさん」と連想していって

磯野家の闇の部分を見てみたい

という作品になりますと、課題との距離を読み手と共有できるでしょうか。この与えられた課題と作品との距離感を考える事は、自由吟を詠む場合のヒントになります。日常の中でふと感じた事柄を句に詠む場合に、読み手にちゃんと伝わるかどうかを推敲する。印象吟はその訓練としても使用することが出来ます。

課題吟は得意だが、自由吟（雑詠）は苦手、逆もありますね。しかし本当は、課題吟・自由吟の違いはそんなにないものなのです。
印象吟の使い方で、その辺りを感じ取っていただければ幸いです。